

事業群評価調書(令和元年度実施)

基本戦略名	9 快適で安全・安心な暮らしをつくる	事業群主管所属	教育庁総務課
施策名	(1) しまや過疎地域等の活性化と持続可能な社会の基盤づくり	課(室)長名	中尾 美恵子
事業群名	④ しまや過疎地域の教育の活性化に向けて、地域と協働した県立学校の魅力化	事業群関係課(室)	高校教育課

1. 計画等概要

(長崎県総合計画チャレンジ2020 本文) 少子化等により規模が小さくなったしまや過疎地域の高等学校については、学校の機能と教育水準の維持を図りながら、地域と協働して魅力ある学校づくりに取り組みます。							(取組項目) i) 離島留学等を活用した魅力ある学校づくりの推進 ii) しまの県立高等学校の魅力化の推進			
事業群	指標		基準年	H28	H29	H30	R元	R2	最終目標(年度)	(進捗状況の分析) 事業の対象となる7地区において、地元市町、学校、地域住民等で構成する「魅力化推進協議会」を設置し、地元の実情にあわせて適宜開催した。 五島南高校と奈留高校については、平成30年度に事業推進計画書が提出され、県教育委員会と地元市が具体的な検討を進め、平成30年度から両校に離島留学を導入している。 また、宇久高校、上対馬高校、北松西高校においては平成29年度に、豊玉高校、中五島高校においても、平成30年度に事業推進計画書が提出された。これら5校においては、現在、県教育委員会の「魅力ある学校づくり研究指定校」に指定し、高校の魅力化に向けた取組を
	しまや過疎地域の地元地域と協働した取組の実施件数(累計)		目標値①	1件	2件	3件	4件	6件	6件(R2)	
			実績値②	2件	5件	7件			進捗状況	
		②/①(達成率)	200%	250%	233%			達成		

2. 平成30年度取組実績(令和元年度新規・補正は参考記載)

事業番号	取組項目	事務事業名	事業期間	事業費(単位:千円)			事業対象	事業概要 (令和元年度新規・補正事業は事業内容)	指標(上段:活動指標、下段:成果指標)			平成30年度事業の成果等	中核事業		
				H29実績	うち一般財源	人件費(参考)			H29目標	H29実績	達成率				
1	取組項目 i	高校生の離島留学推進事業	H13-	40,018	34,210	8,851	中学生 高校生	宿泊体験参加者の約半数が離島留学に志願するなど、高い効果が期待できることから、年度前半の広報活動に力を入れ、より多くの中学生にこれまでの生活を体験させ、志願者の増加につなげた。また、在校生が主体的に企画・運営する取組を行い、各コースの魅力中学生等に広く発信することで、コースへの関心を喚起するよう努めた。	活動指標	他県教育委員会への訪問回数+説明会での説明回数(回)	90	103	114%	●事業の成果 ・県内・県外での実施校説明会、県外教育委員会訪問、宿泊体験等の広報活動の実施により、留学生数が平成29年度の74名から110名に増加した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・留学生数の増加や実施校の取組により、地域と協働した魅力ある学校づくりが推進されている。	○
				46,811	39,605	8,769					105	106	100%		
				56,198	46,932	8,770					90	74	82%		
2	取組項目 ii	離島地区小規模校の魅力化「アイランド・チャレンジ」事業	(H30 終了) H28-30	823	412	7,241	高校7校	平成30年度は、1学年2学級以下の離島の小規模な高校3校(平成29年度に提出された北松西高校の継続協議を含む)を対象に、「魅力化推進協議会」において、事業推進計画の策定や計画に基づく魅力化に向けた取組について協議を行った。また、県教育委員会に設置する「事業検討委員会」が指導・助言を行い、計画の実現に向けて県教育委員会と地元市町が協働して取り組んだ。	活動指標	魅力化推進協議会開催回数(回)	15	15	100%	●事業の成果 ・対象3地区において、県教育委員会と地元市町等が協働して計画の具体化や高校の魅力化に向けて取り組む、「魅力化推進協議会」を延べ9回開催した。 ●事業群の目標(指標達成)への寄与 ・しまの高校教育の活性化に向けて、県立高校の魅力化が進展している。	○
				528	264	7,174					9	9	100%		
											2	3	150%		
		総務課						成果指標	各地区に設置された魅力化推進協議会から事業検討委員会へ提出された事業推進計画書の件数(件)	2	2	100%			

3. 実績の検証及び解決すべき課題と解決に向けた方向性

i) 離島留学等を活用した魅力ある学校づくりの推進
<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊体験、チラシの作成、実施校説明会、県外教育委員会訪問の実施などの取組や対馬高校国際文化交流コースが学科(定員20名から40名へ拡充)となったことで、令和元年度の入学人数は、前年比36名増の110名と増加し、過去最高の入学人数となった。 ・今後も入学者を継続的に確保していくため、生徒が安心して過ごすことができる環境面の充実や里親の開拓と、1人でも多くの生徒に受検し、留学してもらうための広報活動の充実が課題である。
ii) しまの県立高等学校の魅力化の推進
<p>平成30年度までに事業対象7地区において、事業推進計画が策定され事業は終了した。平成30年度から離島留学制度を導入している五島南高校・奈留高校については、県内外における生徒募集活動を行うとともに、地元市や地域と連携した島外からの生徒の受け入れ態勢の一層の整備を進める必要がある。また、他の5校においては、地元市町や地域と一体となり、計画に沿った各種取組を進めることとなるため、進捗状況の確認を行う必要がある。</p>

4. 令和元年度見直し内容及び令和2年度実施に向けた方向性

事業番号	取組項目	事務事業名	令和元年度事業の実施にあたり見直した内容	令和2年度事業の実施に向けた方向性		
			(令和元年度の新たな取組は「R元新規」等と記載、見直しが無い場合は「-」と記載)	事業構築の視点	見直しの方向	見直し区分
1	取組項目i	高校生の離島留学推進事業	これまでの広報活動をより充実させ、各市との連携や離島留學生と地域の交流を促進するため、離島交流アドバイザーを配置する。今年度は更に県外教育委員会への訪問を拡大するとともに、民間企業と連携した広報活動にも取り組んでいく。	②③⑤⑧	令和2年度においては、離島留學生が安心して生活できるような受入体制の構築や里親の開拓等のため、宍道高校への専任職員の配置を検討する。また、全ての実施校において安定した生徒募集が可能になるような体制づくり、里親の開拓等を進めるとともに、引き続き、島外からの生徒募集拡大のための広報や交通費の助成など、必要な取組を検討していく。	拡充

注:「2. 平成30年度取組実績」に記載している事業のうち、平成30年度終了事業、100%国庫事業などで県の裁量の余地がない事業、公共事業評価対象事業、研究事業評価対象事業、指定管理者制度導入施設評価対象事業については、記載対象外としています。

【事業構築の視点】

- ① 視点① 事業群としての成果目標に対し、特に効果が高い事業の見極め、事業の選択と集中ができていないか。
- ② 視点② 指標の進捗状況に応じて、その要因分析及びさらに高い効果を出すための工夫、目標に近づけるための工夫を検討・実施できているか。
- ③ 視点③ 人員・予算を最大限効果的に活用するための事務・事業の廃止・見直しができているか。
- ④ 視点④ 政策間連携により事業効果が高められないか。事業群としてリーダーの明確化、関係課の役割分担・協力関係の整理ができているか。
- ⑤ 視点⑤ 県と市町の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑥ 視点⑥ 県と民間の役割分担・協力関係の整理・認識共有ができているか。
- ⑦ 視点⑦ 戦略的に関係者の行動を引き出せているか。
- ⑧ 視点⑧ 国制度等の最大限の活用が図られているか。国へ政策提案(制度改革要望)する必要はないか。
- ⑨ 視点⑨ 経済情勢等、環境の変化に対応した効果的・適切な見直しとなっているか。
- ⑩ その他の視点